

有機技術通信

トピックス

- 有機農業技術会議の動き
- 第1回研究会（公開セミナー）のお知らせ
- 第1回総合研究会 参加者400名
- 岩手・花巻で出前講座

www.ofrc.net

農を変えたい！全国運動
有機農業技術会議 事務局
発行責任者：藤田 正雄

有機農業技術会議の動き

「有機農業推進に関する基本方針」の実現に向けて動き出す

昨年12月に成立した有機農業の推進に関する法律に基づき、農林水産省は、本年1月から3月にかけて審議した有機農業推進に関する基本的な方針を、4月27日に公表した。この基本方針のなかで、本年度から5年を目処に都道府県で100%、市町村で50%以上の自治体を目標に、有機農業の推進体制の整備を重要な課題として位置づけている。さらに、有機農業技術体系を確立するために、試験研究独立行政法人(以下、国)、都道府県、大学、民間の試験研究機関、行政部局、有機農業者などの参画を得て、有機農業の研究開発を推進することを謳っている。

有機農業技術会議では、中島紀一（茨城大学）と長谷川浩（独立行政法人東北農業研究センター）の両理事の仲立ちによって、4月12日には独立行政法人中央農業総合研究センター（丸山清明所長ほか土壤肥料、病虫害関係研究者7名）を西村和雄（京都大学）代表ほか5名が訪問し、有機農業の研究開発のあり方について意見交換を行った。また、4月24日には農林水産技術会議事務局技術開発課（角谷徳道課長ほか5名）を稲葉光國（民間稲作研究所）副代表ほか3名が訪問し、有機農業の研究開発の現状と課題について意見交換を行った。

このなかで、有機農業技術会議からは、国に期待したいこととして以下の6項目を伝えた。

1. 国の各地方研究センターに持続性のある有機農業圃場を設置すること
2. 各地域の実績ある有機農業者の圃場で農業者と共同研究を進めること
3. 民間における有機農業技術開発を支援すること
4. 有機農業技術開発の進め方、研究課題の設定、研究方法の検討、研究成果の検討などについて有機農業者や有機農業推進団体との連携体制を作ること
5. 有機農業の技術実態の把握や先進事例の到達点などについて国と民間との共同調査を実施すること
6. 国および都道府県の試験研究機関のなかに有機農業の研究者を育てること

今後は、有機農業研究開発の5年後の有るべき姿を念頭において、研究推進と官学民の相互理解を深めるために、共同で現地検討会などを開催する。また、農林水産技術会議事務局技術開発課、中央農業総合研究センターと有機農業技術会議が相互に連絡を取り合っていくことを確認した。

第1回研究会 (公開セミナー)

～有機農業の採種と育種技術を考える～

今回は栽培作物の育種と採種について開催します。生井兵治さん（元筑波大教授）より多様性に富んだ植物の生命現象や有機農業の育種技術、および遺伝子組み換えの危険性について、中川原敏雄さん（自然農法国際研究開発センター）より自家採種技術とそれを支援する取り組みについて、さらに、岩崎政利さん（長崎県・種の自然農園）からは育種・採種の実際を紹介していただきます。また、参加者とともに、有機農業の育種と採種について活発な意見交換を予定しています。

皆様のご参加をお待ちしています。

日時 2007年6月16日（土）13:30～17:00
場所 茨城大学農学部 100番教室
〒300-0393 茨城県阿見町中央3-21-1
・東京駅八重洲南口発江戸崎行き
東京医大病院前（バス約90分）
・JR常磐線土浦駅西口 阿見中央公民館行
茨大前停留所（バス約20分）

連絡先 有機農業技術会議 事務局
E-mail office@ofrc.net
Fax 0263-92-6808

会費 1,000円（当日支払・会員無料）
※人数把握のため、事前にご一報願います。

「第1回総合研究会」開催 参加者400名

3月16日～18日に、滋賀県立大学（彦根市）で「農を変えたい！全国集会in滋賀」（主催：農を変えたい！全国運動、後援：滋賀県、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会）および「第1回有機農業生産者懇話会」（主催：全国有機農業団体協議会）、「第1回総合研究会」（主催：農を変えたい！全国運動 有機農業技術会議）などの有機農業の推進に向けた各種会合が開催され、約800名が集った。

このなかで、3月16、17日に開催された「第1回総合研究会」には、約400名の参加があった。16日に開催された第1部では、中島紀一（茨城大学）理事から「有機農業の技術確立に関する問題提起」と赤城節子（兵庫県有機農業研究会）さんから「有機農業に期待する消費者からのメッセージ」で、有機農業技術会議の設立の経緯とその必要性が述べられた。

次に、西村和雄（京都大学）代表から「有機農業の現状と課題～現代科学から錬金術まで～」と題して基調講演が行われた。農地生態系の再創造・再構築を目指した農業から単に化学肥料の代替えとして有機物を使う農業まで、現状の有機農業の様々な姿を指摘し、これからの有機農業技術のあるべき姿について問題提起を行った。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、西村、中島両理事の司会のもと当技術会議役員がパネラーとなった。水田抑草対策、慣行農業からの転換技術、土づくりについておよび新規就農者支援というテーマでパネラーから話題提供を行ったのち、会場から活発な質問を受けた。「化学肥料と有機物の違い

は？」などの根幹的なものから具体的な技術までさまざまな質問・意見が寄せられた。

17日の第2部は、4つの分科会に分かれ、当技術会議役員が座長を務めた。第1分科会（座長：本田廣一、西村和雄）では有機畜産と健康な作物について、第2分科会（同：稲葉光國、中島紀一）では水田抑草対策と有機農業への転換期間中の支援について、第3分科会（同：橋本力男、藤田正雄）では作物生産と堆肥、土のいきものとの関係について、第4分科会（同：小祝政明、山下一穂、佐古康徳）では有機農業の優位性と新規就農者への支援について、各座長からの具体的な話題提供を踏まえて、活発な意見交換が行われた。

その後の全体会合では、各分科会の発表のあと質疑応答を行い、西村代表の有機農業の技術開発にかける決意表明で締めくくり、盛会裏に終了した。

なお、この研究会の参加者には『有機農業技術確立のために』を資料として配付した。



第1部
パネルディスカッション



第2部 全体会合

宮沢賢治の故郷、岩手・花巻で出前講座

3月31日、4月1日に、有機農学校の開設を願い「農を変えたいin花巻」（主催：花巻有機農学校開設準備会）が花巻市文化会館で開催された。当技術会議からは、西村和雄（京都大学）、中島紀一（茨城大学）、木嶋

利男（環境科学総合研究所）、本田廣一（興農ファーム）の4理事が講師として出前講座を行った。会場には約250名の参加があり、有機農業の推進、有機農学校の開設に向けて盛況のうちに終了した。

賛助会員募集のご案内

有機農業技術会議では、当会議の趣旨に賛同して下さる方を対象に賛助会員制度を設けております。会員の方々へは、電子メールによる機関誌や研究会などのご案内、研究会・研修会などへの割引参加、総合研究会への参加、ご意見・ご要望の反映などのサービスもあります。この機会に是非お申込みください。

お申し込みは技術会議事務局にご連絡ください。また当会議ウェブサイトwww.ofrc.netのホーム→入会案内からも用紙がダウンロードできます。皆様のご入会をお待ちしております。

有機農業技術会議事務局

〒390-1401

長野県東筑摩郡波田町5632

（財）自然農法国際研究
開発センター

農業試験場 内

FAX:0263-92-6808

E-mail: office@ofrc.net

Website: www.ofrc.net